

## 競技・審判上の注意

- 1 本大会は、令和元年度（公財）日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程並びに同公認審判員規程により行います。
- 2 棄権する場合、開会式前ならば、各都県代表が大会本部へその旨を申し出てください。開会式以降ならば、各都県代表者もしくは当該プレーヤーが競技役員長（レフェリー）にその旨を申し出てください。
- 3 競技の品位を保つため、色付き着衣を使用する場合は（公財）日本バドミントン協会の審査合格品とし、上衣背面中央には漢字で都県名を必ず明記してください。（表示については大会運営規程第24条を遵守してください）
- 4 試合は、試合番号順に空いたコートから入れていきます。本部より試合のコール後5分経過しても当該コートに入らない場合は、レフェリーの判断により「棄権」とみなすことがあります。
- 5 試合の進行状況により、試合開始の予定時刻やコートを変更して試合を行うことがあります。プレーヤーは、早めに試合会場待機をお願いします。
- 6 試合が連続する場合は、原則として試合終了後から約15分後に次の試合のコールをします。
- 7 初回戦のみ、試合前2分間の練習を認めます。練習は、当該プレーヤーのみで行ってください。（シングルスの場合は、対戦者同士で行ってください）練習シャトルは、当該プレーヤーでご準備ください。
- 8 審判構成は、主審1名・線審2名とし、サービスジャッジは原則として配置しません。  
敗者の方は、当該コートで次の試合の線審を行ってください。ただし各種目の準決勝と決勝は、主審および線審を主催者側で行います。
- 9 シャトルの交換については、主審が判断します。また使用シャトルのスピードについては、レフェリーが決定します。
- 10 給水やタオルの使用については、必ず主審の許可を得てください。容器については蓋付きのものとし、倒れてもこぼれないものを使用してください。コートサイドにカゴを置きますので、荷物はすべてその中に入れてください。
- 11 試合中の怪我や病気については、主審の判断によりレフェリーを呼び、レフェリーがその後の判断をします。なお、試合中のケガや病気の応急処置は主催者で行いますが、その後の処置は各自の責任とします。
- 12 各コートのバックバウンダリーライン後方、またはサイドにコーチングシートを設けます。コーチはマッチ（試合）にふさわしい服装で臨んでください。
- 13 競技規則で認められたインターバル時に、競技区域に入ることができるのは、同時に2名までとします。
- 14 マッチ（試合）中のコートまたはコート周辺でプレーヤーの携帯電話が鳴った場合は、競技規則第16条第6項（4）の違反とみなします。
- 15 レフェリーにより失格を宣告されたプレーヤーは、今大会でエントリーしているすべての種目において失格となります。
- 16 プレーヤーは試合終了後に、主審（サービスジャッジ）と握手するよう心がけてください。
- 17 その他
  - （1）会場の開館時間は8時30分です。
  - （2）選手の受付時間は8時30分からです。  
競技種目当該日の選手入場口付近「受付」で行います。
  - （3）大会期間中の練習会場はありません。
  - （4）閉会式は行いません。表彰式は各種目の順位決定後、準備ができ次第行います。
  - （5）競技区域外でのシャトル打ちは厳禁です。
  - （6）ゴミは、すべて各自持ち帰りをお願いします。